

1) 本体・土台の復旧方法について



国土を**整え**、全力で**備える**

国土交通省
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

①本体(火袋部)の対応策について

○火袋の開閉は、金枠の外側に設置する**木枠の一面を扉形状**にすることで対応する。扉の位置は**見栄えを考慮して背面(堤防側)**を予定する。

○金材の内側被覆は、既存資材をケレン後に木材で隠すことを想定しているが、メンテナンスの面から**目立たない暗い色での塗装**や木調等の**リメイクシート**などで対応することも考えられる。

<木枠の開閉>

扉の設置方法

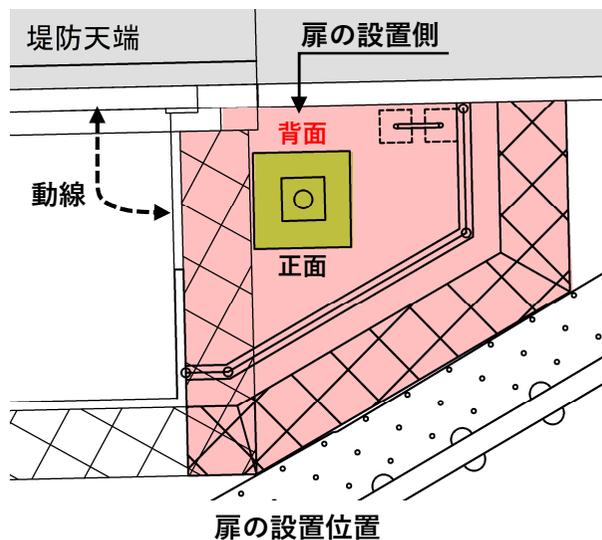
解体前施設は、金枠の外側に木枠を組み、その内側に格子が取り付けられている。

格子が取り付けられている四面の内、背面となる堤防側の一面を扉構造にする。

ただし、扉の取り付けには、**蝶番が外観で見える**こと、一面だけ外側の木枠の面に位置を合わせる必要があるため、**格子の位置が、他の面より外側になる**。



扉の設置方法



扉の設置位置



扉の設置箇所

<金枠の被覆>

金枠の外側は木枠を設置するため、外観から見えないような対処が可能であるが、内側は金枠が露出するため、対処として以下を想定。

被服方法

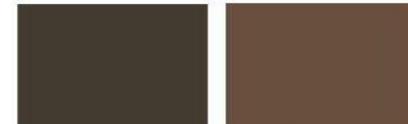
- 第1案: 目立たない色での塗装
- 第2案: リメイクシートの貼り付け
- 第3案 木材

〔内側から外枠とビス留め等により金枠を挟んで一体化〕



保管している金枠

第1案



参考 塗装

第2案



参考 リメイクシート

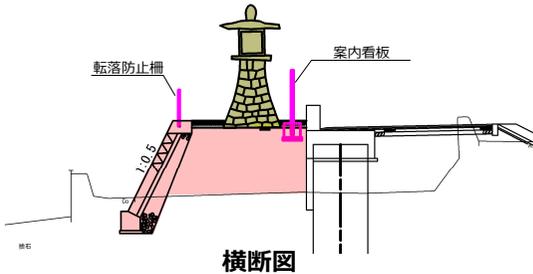
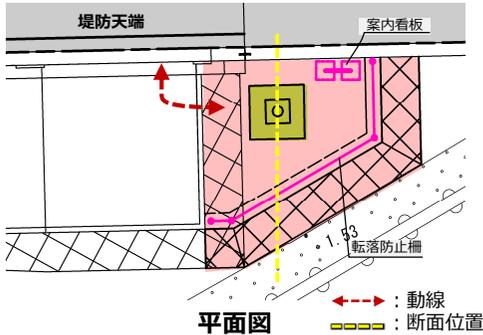
復旧時に保管している金枠の状況により対処が困難である場合は改めて協議する。1

②土台の対応策について

○天端のスペースにゆとりを持たせた**第4案の採用が決定**した。資材は、**間知石か間知ブロックのいずれか**とする。

<決定した構造(第4案)>

案内看板位置は、本検討会で討議する。



<事例:乙子常夜灯>



乙子常夜灯は周辺が土堤であるため石材が映えやすく当該箇所とは異なる。

<当該地区への適用>

- ・保管石材の利用は、2次加工を要する等、復旧の迅速性や施工ヤードの確保などを考慮すると現実的ではない。そのため、**新規購入材料を利用する**。
- ・下流の現況坂路は、第2案の間知ブロック(滑面)を利用している。坂路等の既存施設への**接続部は間詰めコンクリート**が発生する上、**周辺がコンクリート構造物であるため、石材を利用しても映える構造物にはなりにくい**。



旧九幡港常夜灯復旧予定地

<間知石および間知ブロックの比較>

	第1案	第2案	第3案	第4案
工法	間知石	滑面	間知ブロック 粗面	石材風
イメージ				
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・外観は、自然石のため他案より優れる。 ・中国からの輸入品のため、納期は約3~4カ月程度(春節期間を除く)を要す。 ・石工による施工となるため他案より施工期間が長く、石工職人の数が少ないため事前に調整が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下流の坂路で利用されているものと同じブロックである。 ・市場性の高いブロックであり入手に支障はない。 ・一般的に、日当りの施工量は石積の2倍程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然石のような割肌を人工的に創りだしたブロックである。 ・市場性の高いブロックであり入手に支障はない。 ・一般的に、日当りの施工量は石積の2倍程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工的な面取り部を全てハツリ落とし、偶発的な仕上がりにしたブロックである。 ・国内メーカーが制作しているため、入手に支障はない。 ・一般的に、日当りの施工量は石積の2倍程度である。
維持管理		各案に差は無い		

【参考資料】地元説明用資料(案)

- 旧九幡港常夜灯については、工事により、解体・保存しています。
- この度、令和6年度吉井川旧九幡港常夜灯復旧検討会でご意見をいただき、復旧方法が決定しました。
- 令和7年度の完了を目標に復旧を進めることとしています。

<復旧位置>



<復旧イメージ図>



【参考資料】火袋内部の灯火について

- 灯籠内部の点灯のための商用電力の引込は、施設規模や解体前の利用状況を考慮して実施しないこととする。
- 簡易的なものとして、自動点灯するソーラー式のライト(市販されている商品)を設置することを提案する。

＜ソーラー式のライトの参考商品＞

① ソーラーパネルとライトが分離し、ケーブルで接続する製品

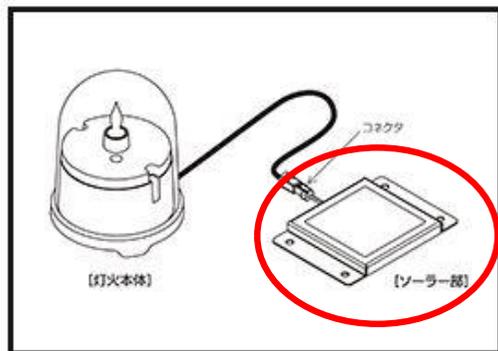
ソーラーパネルを火袋の外に設置するため、確実に充電できるが**配線が露出するため見た目に劣る。**

ソーラー式 灯籠用LED灯火
AL-102 「庭の灯籠を光らせたい」
そんな願いを叶えます

ソーラーで充電するので
電気工事も 電気代も いりません

税込送料込 11,000円
別売の延長ケーブル(1m)
1本 330円(税込)
※延長ケーブルのみのご購入はできません。

ソーラーパネルが分離した参考製品



構造



ソーラーパネル部分
(火袋の外に設置)

② ソーラーパネルがライトに内蔵した製品

内蔵のソーラーパネルから、充電して夜間に点灯する商品であるため、配線がなく見た目は良い。効率的な充電となるような太陽光パネルの配置を工夫した製品もあるが、今回設置する箇所が、火袋内で**直射日光があたる箇所ではないため、充電が不十分となる可能性がある。**火袋が大きい場合、給電のため4隅に配置することが望ましい。

LED GARDEN SOLAR LIGHT
防塵・防水性能 IP66
7cmタイプ

カラーは選べる2色
ホワイト
ゴールド

明るさの目安
0.06W相当 LED1灯
ルーメン値
ホワイト 約1,34lm
ゴールド 約1,89lm

参考製品1 (通常タイプ)

6つのおすすめポイント

置くだけ簡単設置

13個の高輝度LED

IP68 防水

高効率太陽光パネル

参考製品2 (ソーラーパネルを斜めに配置して高効率にしたタイプ)

ソーラー充電
Solar charging

配線不要
No wiring required

防塵設計 防水
Dustproof design
Waterproof

夜間自動点灯
Automatic night lighting

大容量バッテリー
Large capacity battery

取り付け簡単
Easy installation

大容量電池搭載
800mah

設置時点に別途協議し。製品を決定する。 4